

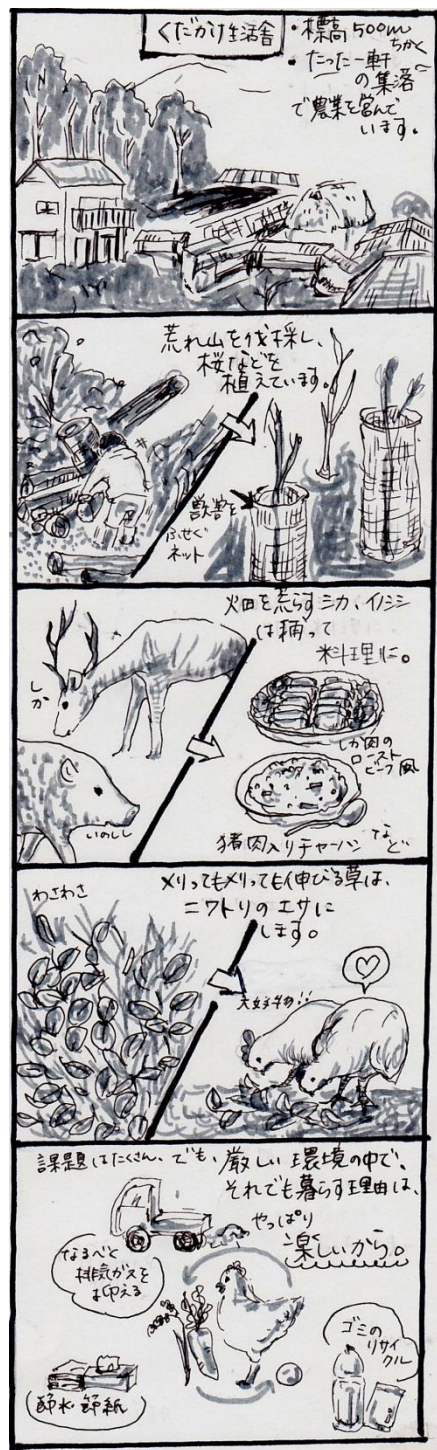
有機の
仲間たち
其の二

くだかけ生活舎

山北町高杉は、大野山山腹の標高 500 メートル近く、北東向き斜面にある古い集落で、居住世帯は我が家一軒です。隣の家（集落）まで 1 キロ以上離れていて、町へつながる

らず、何年もかかる場合があります。木の伐採や動物を獲るのは危険で命がけです。これらの事や道路の整備などをうまく進めるためには地域の活動にも積極的に参加しなければなりません。一年中労働量が多くて厳しく、家族や寮生、時々来てくださる方々などと力を合わせなければとても回せません。

唯一の道路は、大雨のたびに寸断されるとても厳しい土地です。約四十年前、この地に祖父母が移り住んで、青少年たちの共同生活の場・一心寮を始めました。その後私の家族が合流し、父が「くだかけ生活舎」と看板を改めて今に至っています。



何度か山を下りようかと迷いながらもこの土地に住みつづけるのは何故か。この場所をなくさないでほしいという旧住民の人たちや、寮のOBや支援者の方々の期待に応えるために。山に住みつけて山を整備し、水源環境保全に貢献するために。循環型有機農業をすることでエコな生活をするために……、たぶん全部違います。自分や家族に過度な負担がかかれば山を下りることも一つの選択肢なので、期待に応えるためとはあまり考えていません。また、環境保全やエコな生活をしているように見えるけれど、現実には車で山を上り下りして排気ガスの排出量は都会人より多いかもしれません。住みつづける一番の理由は、この土地で農業や林業など、いろいろやりながら生活するのがとても楽しいからです。ここでずっと育ってきた自分は、ここで一番能力を発揮できると思います。

私は、子どもの頃から畑を手伝わされたり、給食の残りで鶏を飼ってみたいりましたがあまりうまくいかず、農業はそれほど好きではありませんでした。ところが十代半ばから農業が楽しくなりました。学生時代などに中断した時期もありますが、年々畑を広げ、今では野菜やお米、卵や肉まで自給しており販売もしています。

昨年結婚して山の生活に合流した真希ちゃん(27)、父母が思想の主体になっているくだかけ生活舎の活動、寮生、その他の皆さんと力を合わせて、派手でもしっかりと足元を見て山の生活をしていけたらと思っています。

我が家の農業の特色は、厳しいことです。山奥で農地が限られており、町の方まで田畑を作りに通わなければなりません。また、数年前から旧住民の高齢化により、農地や山林、道路の手入れができなくなって荒廃し、獣の被害も激しくなってきた、それらの問題がほぼ全て、うち一軒の肩のしかかかってきました。こういった問題をかえってチャンスととらえて、刈っても刈っても生えてくる草は鶏のエサにし、荒れ地を開墾して農地を広げ、荒れ山を伐採して薪にし、クヌギやモミジ、桜を植えました。動物はつかまえて肉にして食べています。言葉では簡単ですが、なかなか大変です。荒れているとはいえ畑を借りたり山林を伐採するには、地主を説得しなければな

くだかけ生活舎 和田一良 (34)



果樹剪定講習会に参加して
山室光由

前日の雪がまだ残り、朝の冷え込みも厳しかったのですが、鳥居さんの熱のこもった指導で、寒さもあまり感じませんでした。

まず上から木を見て、枝の方向性を考える事。太い枝などは、いつでも切れるので、慌てて切らない事。太い枝を切る時2〜3回ぐらいに分け、他の枝や花芽を傷つけない様にする事。枝の伸ばす方向により上芽、下芽で切る事。枝を切ると言う事は、水道の蛇口を開くのと同じと言う事。あまり難しく考えずに、剪定作業をする事。など、まだまだ沢山の事を教わったのですが、解った様な、解らない様な感じです。何でもそうだと思うのですが、数をこなさないと、解らないと思いました。

講習終了後、鳥居さんが持ってきてくれたキウイフルーツをポケットに沢山詰め込みながら、非常に得した気分になりました。ありがとうございます。

*一月二十五日、八時半〜／笹村農
鶏園果樹園にて／講師：ジョイファーム
小田原・鳥居啓宣さん

2人で始めた Junkan 農園、

子ども二人が誕生し4人になって1年がたとうとしている。ここまで好きな畑仕事が出来なくなるとは思っていなかった一方で、家族皆が(なんとか)農で暮らしを立てているから、子育てがあまりきつくなかったかな、と思う時もある。

冬の畑は子どもに荒らされて困るものが少ない。だからこの時期は、葉が寒さで茶色くなっているニンジンの上をハイハイする晴樹を横目に収穫作業をできるし、里芋畑の畝を登って降りて、登って降りてと走り回る福太郎と、ハイハイする晴樹をたくましくなってきたなあ、と思いつつ里芋の泥を落とす事が出来る。

子どもと一緒に畑に出る事って、結構楽しいです。気づいてみれば、草取りを出来るようになったり、収穫出来るものが増えたり、鋏や鎌が使えるようになったり、コンテナ運べていたり。大人が危ない!危ない!と言わずに子どもを横目で見守りながら遊ばせられる場所をのんびり作りたいなと考えています。とりあえず、畑で子どもを見ながら農作業をして(出来るのか?!)、持ってきたお弁当を食べて解散という会、名付けて「畑ランチ」を考え中。興味のある方ご連絡を。

田中 早保

sadeshi-ktai@t.vodafone.ne.jp
0465-82-1353(Tel/Fax)

こうちゃん発熱す

味噌用麹仕込 1.11と15

麹のこうちゃんは、45℃になってしまいました。

お米は、仕込み前に24時間水に浸し、12時間タオルを敷いて水切りをしました。ブルーベリー旭では、薪で湯を沸かし1時間程蒸した後、麹菌をまぶし床もみをしました。

それをシーツ・新聞紙・米袋・毛布で包み、抱きかかえて帰宅。電気毛布・湯たんぽを使い保温に努め、滑り出しは順調。初心者にも案外簡単にできるし、米麹作りで今まで失敗した人はいないというのも納得。夜は布団の横に横たえて温度をチェック。

ところが、38時間程経った1月17日深夜に温度計を見ると、なんと45℃に。その前に測った時から3時間経っていたので、その間中45℃のままだったのかもしれない。40℃を超えると菌が死んでしまう、今まで米麹作りに失敗した人はいないという声が、重くのしかかってくる。ひょっとして第1号になるのかも・・・

何かあれば電話してください、という藤崎さんの温かくも初心者には心強い一声を思い出しながら、袋を開け、湯たんぽをはずし、熱を下げて35℃を保ちました。朝、藤崎さんのアドバイスを得一安心。

こうちゃんは今静かに、冷蔵庫で眠っています。これからいよいよ味噌作りです。そろそろ起こさなくては。

吉田茂樹

*味噌作り(2月5日)は来月号に!

● 機械整備の講習 [後篇] ●

小池 良 (子の神田んぼ)

昨年12月4日の午後、機械小屋での大掃除後に、坊所の星野さんに来ていただいて、機械整備の講習を行いました。

星野さんは全くのアマチュアで機械整備をなさっている「匠」です。今回は、刈り払い機・チェーンソーの整備方法の概要をお教えくださり、また、農の会が保有するバインダーとハーベスターを点検していただきました。

＜刈り払い機＞ 整備で一番大切なのは、「シーズンオフはガソリンを抜くこと」だそうです。ガソリンを抜かないと、「ダイヤフラム」という薄いゴムできている調整弁が劣化しやすいからです。刈り払い機には必ずプライマーポンプが付いているので、ガソリンを容器に空けたら、必ずこのポンプを利用して完全にエンジンからガソリンを抜きましょう。なお、性能自体はホームセンターの1万円台のもの、農機具店の高価なものとは大差がないそうです(高い方が持ち手が軽い等長所はある)。

＜チェーンソー＞ 故障なく使うコツは、「使い終わったらバナーを外して根元や内側を掃除すること」と、「ガソリンより先にチェーンソーオイルがなくならないように補充すること」です。前者は言わずもがなですが、後者は、オイル抜きでチェーンソーを用いるとすぐに故障してしまうからです。チェーンソーが内部から油を少しずつ出しながら動いていることを、恥ずかしながらこのとき初めて知りました。また、使わない時期はガソリンを抜く点は刈り払い機と同じです(プライマーポンプがないので、ギリギリまで抜いたら最後にスロットルを回して使い切ってしまうとよい)。

＜バインダー＞ 星野さんが点検した結果、キャブレターから

のガス漏れが原因であることが判明。もっとも、バインダー自体が古いタイプで、ぴったり合うキャブレターが入手できるかは微妙...(星野さんのツテで当たってくださるとのお話)。ものがものだけに、素人には手が出せそうにありません。残念。

＜ハーベスター＞ オーバーヒートをすぐに起こしてしまうハーベスター、一ニを争う高価な機械なので多くの会員が心配していましたが、星野さんが慎重に調べた結果、どうやらエンジンオイルの不足が原因だと判明。オイルを抜き、エンジン洗浄を行ったのち、オイル交換をすればよいとのことでした。

大がかりなものから日常使うような小さなものまで、様々な機械を扱いましたが、全ての講義で共通していたのが、星野さんの機械に対する深い愛情です。自給自足社会を目指すには、こうした「匠」の手を借りながら、我々自身ももっと普段使う道具に愛着を持ち、じっくり付き合わなければいけないなど感じた一日でした。星野さん、貴重なお話、本当にありがとうございました!



↑↑↑ 星野さん。バインダー内部の樹脂部品をあぶって調整なさっているところです。